

災害時対応及び地域連携を支える新たな幹線道路の整備について

東日本大震災及び原子力発電所の事故から6年が経過し、「復興・創生期間」という新たなステージを迎えた中で、福島市におきましても、持続可能な自立した地域づくりに対する自律的な取組みが強く求められております。

持続可能な地域づくりのためには、緊急時に対する事前対応が重要であり、特に自然災害発生時にも対応可能な幹線道路の整備・確保は重要な課題であります。

また福島市は、県北の母都市として、周辺市町村と連携し県北地域全体を見据えた地方創生の牽引役を担うことも期待されていることから、地域間連携の基盤となります幹線道路の整備が不可欠な課題となっております。

つきましては、災害時対応及び地域連携を支える新たな幹線道路の整備について、下記の通り要望いたします。

1. 吾妻山火山噴火緊急対応および地域連携を支える新たな幹線道路の整備促進

吾妻山火山防災マップによれば、大規模な噴火時に発生した泥流は2時間後には阿武隈川にまで到達し、融雪時にはさらに早まることが予測されております。

その際には福島市の現状の道路網はほぼ寸断され、緊急避難経路の確保、被災者支援、復旧作業等は著しく困難となることから、災害対策として、福島市東部地区への新たな道路整備が不可欠であります。

また、この道路整備は国道4号の新たなバイパス機能を有することとなり、県北地域全体の広域の物流・交通機能の強化が期待されるとともに、開発が遅れている福島市東部地区の開発に貢献するものと思われれます。

つきましては、吾妻山火山噴火緊急対応および地域連携を支える新たな幹線道路を整備いただくよう要望いたします。

2. 東西連携強化のための福島市域における国道115号の新たなルートの整備促進

地方創生を実現するためには広域連携が不可欠であり、東北中央自動車道開通に対する期待は高まっておりますが、併せて、東北中央自動車道と連結する道路整備の重要性が高まっております。

特に、(仮称)霊山ICから直接国道115号に至るルートが新設されますと、東西の連携が強化され、相馬地区から会津地区へのアクセスが大幅に改善し、相馬港を活用した物流機能や会津地区との観光交流の促進に貢献されるほか、相馬地区から、本県における医療の拠点であり「ふくしま国際医療科学センター」が設置された福島県立医科大学への緊急時のアクセスが大幅に改善されるなど、広域連携への効果が大きいと期待されるものであります。

つきましては、東西連携強化のための福島市域における国道115号の新たなルートを整備いただくよう要望いたします。